



神奈川県

KANAGAWA

企業や大学における 若者のキャリア支援に向けて

「20代で考えよう!キャリア&ライフセミナー」
実施内容から

はじめに

神奈川県では、少子化問題への取組みの1つとして、これから子育て世代となる若者を対象に、「若者のための働き方を考える交流会～20代で考えよう！キャリア&ライフセミナー～」を実施しました。

このセミナーの受講者には、仕事と生活の両立実践者との交流を通じて、ワーク・ライフ・バランス（以下WLB）や仕事をしながらも充実したライフスタイルの実践方法を学んでいただき、仕事と子育て等との両立が可能であると実感していただきました。

このたび、本セミナーを実施する中で出された若者の考え方や意見をまとめ、仕事や生活に対する若者の考え方方が明らかになるよう冊子を作成しました。各企業における人材採用や定着のためのWLB推進の取組みに加え、各学校の学生に対する就職指導等のご参考になれば幸いです。

● ● ● 20代で考えよう！キャリア&ライフセミナー ● ● ●

■ 目的

働き始めたばかりの20代の多くは仕事に重点を置いて取り組んでいる状況にあるが、一方では、近い将来、子育て世代に突入することが想定される。そこで、就職前、あるいは就職後まもないタイミングで、自らのライフスタイルを考える機会を提供し、安心して仕事と結婚や子育てができるという実感を得てもらうこととするため、本セミナーを開催した。



■ 受講者

- 就職内定者(神奈川県在住もしくは在学)
- 就職1～2年目(神奈川県在住もしくは在勤)

■ 日程

平成26年12月～平成27年2月（神奈川県内で5回開催）

■ セミナープログラム

| | 内 容 | カリキュラム |
|--------|--|---|
| 一 部 | <ul style="list-style-type: none">セミナー個人ワークグループワーク | <ol style="list-style-type: none">私にとっての「働く」とは？企業や個人を取り巻く環境についてワーク・ライフ・バランスについてキャリアをデザインするということ自分の将来・キャリアをイメージしてみよう  |
| 二 部 | 両立実践者との交流会 | <ol style="list-style-type: none">全体意見交流会男女別グループによる交流会男女混合グループによる交流会参加者からの感想発表両立実践者、講師からのメッセージ  |

仕事や生活について20代の若者はこう考えています

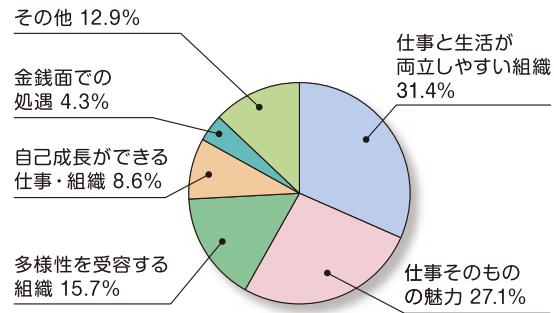
働きたいと思える企業とは？

「**「仕事と生活の両立」を希望**
「**「仕事そのものの魅力」「自己成長」を重視したいとの意見も！**



セミナーを受け、「どのような企業・団体で働きたいと考えますか」というアンケートへの回答によれば、20代前半の若者が、働く（働きたい）企業等の組織に対して期待することは、以下のとおりでした。

- ①「**仕事と生活が両立しやすい組織で働きたい**」 …… 31.4%
- ②「**仕事そのものの魅力**」 …… 27.1%
- ③「**多様性を受容する組織**」 …… 15.7%
- ④「**自己成長ができる仕事・組織**」 …… 8.6%
- ⑤「**金銭面での待遇**」 …… 4.3%



組織の制度や風土に「**仕事と生活の両立のしやすさ**」や「**多様性の受容**」を取り入れることが、若者の採用と定着に寄与すると言えます。また、若者は、「**仕事そのものの魅力**」と「**自己成長できる仕事・組織**」を求めています。WLB推進の取組みと、仕事への動機づけに働きかけることが、優秀な若者の採用・定着につながるとともに、誰もが働きやすい組織作りの一環になると考えられます。

受講者の声をご紹介します



「**仕事と生活の両立した働き方と、それを受け入れる組織**」を重視

- 仕事がしっかりと評価され、休みやすい職場を望みます。
- 育児休みなどの仕組みがあって、ちゃんと活用されているかが気になる。
- 働き方に柔軟性がある会社を希望します。「長時間勤務が評価される」など古い価値観がないこと。
- プライベートの時間も大切にしてくれる会社！
- 育休後に職場復帰する際のバックアップ体制が充実している所で働きたい。
- 一人ひとり、考え方やバックグラウンドが異なるので、違いを認め合える雰囲気の会社が理想。
- 多様な働き方に対する理解があり、より効率的に働くための議論ができる職場で働きたい。
- 個人の選択によって働き方を選べる制度があるといいな。



「**仕事そのものの魅力と、自分の成長**」を大事にしたい

- 自分のやりたい事がそこで出来るのか、人々に大きな影響を与え感謝されるような仕事をしたい。
- 仕事をこなすのではなく、やりがいを持って働ける会社が良いと思う。
- 仕事そのものに魅力があるのはもちろんですが、自分が人として成長していくような職場で働きたい。
- 仕事を通じて社会や人々に影響を与えるような職につきたい。
- 一人ひとりのキャリアアップ、成長をサポートしてくれる会社で働きたい。

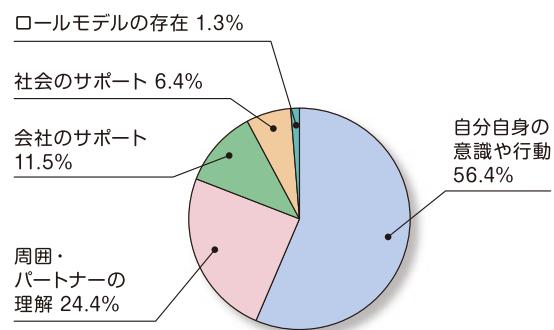
仕事と生活の両立に必要なものとは？

「自分自身の意識や行動」が最も多い回答
若者は当事者意識を持っている！



セミナーを受け、「仕事と生活を両立させ充実した人生を送るために何が必要か」というアンケートに対し、最も多かった回答が「自分自身の意識と行動」で過半数を占めています。

- ①「自分自身の意識や行動」 56.4%
- ②「周囲・パートナーの理解」 24.4%
- ③「会社のサポート」 11.5%
- ④「社会のサポート」 6.4%
- ⑤「ロールモデルの存在」 1.3%



仕事と生活を両立させ充実した人生を送れるかどうかの責任や原因を、会社や社会のサポートよりも自分自身の内側に求めています。その意味において、個人を啓発する機会を増やすことがより重要であると言えます。

受講者の声をご紹介します

「自分自身の意識や行動」が必要



- 自分自身の視野と価値観をもっと広げることが大切だと感じた。
- 古い価値観にしばられず柔軟なこと、あたりまえとして自分的人生を楽しむことが必要だと思う。
- 周囲との協力と、人のことだけでなく自分自身のことも大切にし、幸せになろうとする気持ちが大事だと思います。
- まずは一人一人が自分をしっかり持つこと。そして、他者の考えを受け入れることが大事！
- 日頃からたくさんの人と話し、自分のターニングポイントで、人から学んだ意見を参考にして、最善の選択をしていきたい。
- 仕事を一生懸命すること！
- 私自身は協力してもらえるように仕事をがんばり、周りの人に気持ちよく働いてもらえる環境づくりをしていきたい。
- 言い訳しないで、主体的に行動することが大切だと思う。

「企業」や「社会」に求めるサポート

- 会社や団体の社員へのサポート体制。
- 男性が家庭の時間を確保できる仕組み。
- 企業の制度の充実と職場の雰囲気。
- 多様な働き方の理解。
- 企業は、制度をしっかりと活用できること。自分自身もしっかりと申請する。社会も理解をしめすこと。
- 周りの方の協力が必要だと思います。日本社会全体が、育児に対して協力的になれるように、自分も将来仕事をしていきたいと思った。



両立実践者との交流会で出された意見や質問より

20代若者の本音

若者は仕事と生活の両立に不安を感じている！



結婚・出産について

- 自分のキャリアを築きたいと思っている中で、いつ結婚・出産するか悩んでいます。
- 仕事のイメージは先輩などから聞いているので想像しやすいが、結婚や子育ては周りに聞ける先輩がないのでイメージがしづらいです。



仕事と家庭の両立について



- 今までは、働きながら家事育児をするイメージができません。どうしたらいいのか…。
- 職場は、就業時間が長く夜間勤務シフトがあるので、育児と両立できるか不安です。
- 同じ部署に、女性で産休・育休後に復帰した人がいません。出産しても働きたいけど、産休・育休の後、復帰ができるのか心配です。
- 仕事と家庭をうまく両立する方法があれば、教えてください。
- 仕事と子育てで忙しい中、自分の時間はどのようにして作っていますか？
- 結婚や出産を経て、働き方は独身の頃とどのように変わりましたか？

家事の分担について

- どうすれば夫婦で協力できるのでしょうか？
- 家事の分担は話し合って決めましたか、それとも自然な流れで決まったのですか？
- どうやって旦那さんに家事や育児に参加してもらいましたか？



仕事や働き方について



- 入社後、いつ頃から仕事を1人でも進めることができるようになりましたか？
- 自分で仕事をマネジメントできない時期に、仕事と育児等を両立できるか不安です。
- 家庭を持つと、転勤の時どうするか不安。断ると昇進などに影響しそうです。
- 育休・時短をとることで、仕事に影響や支障は出ませんか？ その場合はどうしましたか？
- 勤務時間に制約があると、なかなか思うように働けないと思います。そういう時は、仕事にどのような工夫をしているのですか？
- 時間無制限で働いている人に比べて評価されづらいのでは？ 評価してもらう為に工夫しているポイントはありますか？
- 育休からの復帰後、仕事内容は変わりましたか？

<セミナー講師より>

仕事と結婚、出産・育児との両立に対して漠然とした不安を感じていた受講者が、セミナーを通じ、リアリティを持って今後の自身のキャリアを捉えるようになりました。また、両立実践者から「なんとかなる。大丈夫！」とメッセージを受け取り、一様に明るい表情になっていた姿が印象的でした。

最後に…



【企業・団体等】
若者を受け入れる組織の皆様に向けて

人材採用・定着
のために…

キャリア研修の今後の方向性について

1. 仕事と生活の両立をテーマに取り入れる

かつて仕事人間と言われた「ワーク・ワーク社員」から、生活面の充実が仕事への意欲につながる「ワーク・ライフ社員」へと、若者の働き方や価値観が変わりつつあります。これまでのキャリア研修は仕事中心の内容で実施されていることが多いと思いますが、若者の仕事への意欲を高めるために、仕事と生活の両立もテーマに入れたキャリア研修を行う必要性が高まっています。



2. ロールモデル（両立実践者）との交流を活用

キャリア研修の際には、両立実践者との交流が、若手社員にとっては貴重な経験となります。社内の先輩社員である両立実践者の存在が、良きロールモデルとなり、若手社員は「自分達も両立できそう」と感じられるようになります。また、先輩社員にとっても後輩社員との交流を持つことで、存在感や影響力が上がり、仕事への意欲を高める事にもつながります。



3. 長期視点で考える

若手社員は仕事面や生活面の経験が不足するため、これから的人生全般に漠然とした不安が多いのではないかと考えられます。そうしたことから、ライフイベントごとに「結婚⇒夫婦の役割分担⇒両立の方法・時間の捻出⇒出産⇒育休・復職⇒効率的な働き方・成果の出し方」などをテーマに研修を行うことが、不安要素の解決に有効であると考えられます。



また、若者はキャリアを短期的な視点で考え、「仕事と生活の両立は難しい」と考えてしまいがちです。直近のことだけではなく、育児が落ち着いた後のキャリアまで長期的な視点で考える機会を持つことで、仕事と生活の最適バランスが変化することを理解し、より自身のキャリアを大切にする意識が高まります。

若者を迎える組織のあり方について

1. 生活面にも配慮した組織運営を

個人と組織の関係性は変化しています。かつては「金銭面の高待遇」が仕事への意欲となっていた個人が多くいたと考えられますが、現在では仕事と生活の両立を望む若者が多く、社員の生活面にも配慮したマネジメントが必要です。仕事と生活の両面を考慮した組織運営をすることが、人材採用・定着や社員の仕事への意欲の向上による生産性向上につながると考えられます。

2. ダイバーシティ（多様性）を受容する組織、風土作りへ

仕事と生活の両立が上手くいかず、仕事への意欲が下がってしまい、やがては離職に至る社員を減らすためには、「仕事と生活が両立しやすい組織」にする必要があります。様々な制度を充実させるとともに、その制度を活用できるような現場のマネジメントが求められます。また、様々な働き方や異なるキャリア志向、価値観など「多様性を受容する組織」にすることも必要です。多様性をリスクマネジメントや企業の社会的責任の文脈で語るのではなく、企業の利益や生産性の向上につながることを全員が理解し、多様性を受容する組織の風土や雰囲気づくりに傾注することが重要であると考えられます。

セミナーの受講アンケートや、交流会で両立実践者へ投げかけられた質問等から見た20代前半の若者の考え方を受けて、今後の課題をまとめました。若者を受け入れる組織（企業や団体など）の皆様、並びに若者を送り出す各学校の皆様におかれましては、今後の取組みのご参考になれば、幸いです。



【大学・専門学校】 若者を送り出す学校の皆様に向けて

キャリア支援・
就職支援の
ために…

キャリア教育の今後の方針について

1. 就職先での定着と活躍を念頭におき、仕事と生活の両立も含めたキャリア教育を

かつて仕事人間と言われた「ワーク・ワーク社員」から、生活面の充実が仕事への意欲向上につながる「ワーク・ライフ社員」へと、若者の働き方や価値観が変わりつつあります。キャリア教育は学校内でも十分に実施されていると思われますが、就職を念頭に置いた仕事中心の内容だけでなく、就職先での定着と活躍を念頭に置いて、仕事と生活の両立を含めたキャリア教育も必要です。

2. ロールモデル（両立実践者）との交流を活用

その教育の際には、両立実践者との交流が、学生にとっては貴重な経験となります。学校職員や卒業生の中に両立実践者を見つけ、良きロールモデルとして学生に語りかける機会を設けることで、学生にとっては就職活動をする際の新たな視点も見つかるのではないかでしょうか。

3. 長期視点で、仕事と生活の両立を具体的にイメージさせる

学生は、アルバイトを除けばまだ働いた経験もなく、仕事と結婚や育児等のライフイベントとの両立方法といつてもイメージがわかないため、これから的人生全般に対して漠然とした不安を抱えています。仕事のことだけではなく、ライフイベントと関連させながら「結婚⇒夫婦の役割分担⇒両立の方法・時間の捻出⇒出産⇒育休・復職⇒効率的な働き方・成果の出し方」など具体的な情報を与えることで、不安要素が減り、社会への力強い第一歩が踏み出せるのではないかでしょうか。また、キャリアを短期的な視点で考えてしまい、直近の問題に翻弄されがちです。仕事と家庭・育児との両立だけではなく、自身の人生をどのように生きるかを描く機会を持つことで、今後の自身のキャリアを自律的に考える意識が高まると考えられます。

若者を社会に送り出す学校への期待について

1. 若者の主体的な姿勢

「仕事と生活の両立をして充実した人生を送るために何が必要ですか」との問いに、若者は「自分自身の意識と行動」と回答しました。周囲のサポートや就職する企業や団体のサポート、そして社会のサポートが必要なことは当然ですが、自分の問題としても捉えていると考えられます。環境の責任にすることなく主体的に考える姿勢は素晴らしいものであり、このような姿勢を社会に出てもなお堅持できるようにする学校教育も必要であると考えられます。



2. 自ら行動発揮する意識・信念・価値観を

若者が意識や信念、価値観を行動に示し、自ら努力をしていくことによって初めて、周囲からのサポートが得られるのではないかでしょうか。今後の無限の可能性を持つ若者に対し、スキルとして社会人基礎力を付与することと同時に、仕事と生活の両立をして充実した人生を送るための「意識・信念・価値観」に触れるような学校教育の機会が必要であると考えられます。





<制作・編集>

株式会社キャリアネットワーク(受託事業者)
〒107-0062 東京都港区南青山6-8-6



神奈川県

産業労働局労働部労政福祉課
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
電話 (045) 210-5744